

「在宅医療のススメ」講演会に175人も参加

自宅への訪問診療を希望のときは相談してください



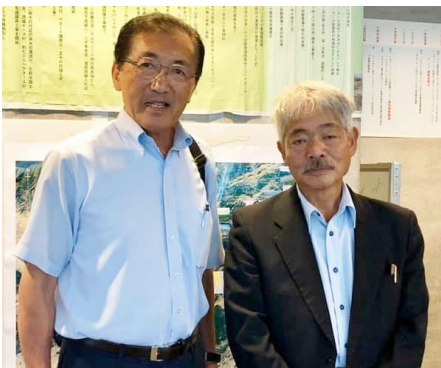
岩野歩医師、長谷川久美医師が講演、報告

2019年11月23日・千鳥苑

「通院が困難で往診をお願いしたい」、「住み慣れた自宅で最期を迎えたい」という声は切実です。医師、看護師等が自宅を定期的に訪問してその声に応えます。古賀市薬王寺にも在宅医療クリニックが開業しました。私も全力でサポートします。困ったとき、相談したいときは電話してください。

090-3664-1674

中村哲医師の想いを引き継ぐ



写真は昨年6月1日、アフガン報告を聞いた時に撮影。凶弾に倒れた中村哲さんは古賀西小学校の卒業生。平和、水と緑、命を大切にしたい想いをみんなでき引き継ぎましょう。

感動！ 第九合唱に初参加



昨年12月14日、第14回古賀市第9演奏会で、私は合唱に初めて参加しました。オーケストラ、ソリストを前に心から感動しました。音楽の力はすごいですね。

後援会費・カンパ・資料代の振込方法

<郵便振替> 口座記号番号 01780-1-8962 ぬま健司後援会
<ゆうちょ銀行> 店番 748 普通預金 口座番号 9429413
名義 ぬま健司後援会



古賀市議会議員
ぬま健司

ぬま健司 ニュースレター

2020年1月発行

Facebook、Insta、Homepageで発信！



ぬま健司後援会

〒811-3113

古賀市千鳥2-3-7 安部ビル103

電話・FAX: 092-944-2639

メール: ny2knm@gmail.com

チャレンジ2030 10年計画

議員活動、元気よく再開

私は2019年4月の市議選で再度議会へ送っていただきました。6月、9月、12月の定例議会で田辺市長と一般質問。道の駅、子ども特定健診、総合計画と市民ワークショップなど提言しました。

また、在宅医療では175人も参加する講演会を開催。議会でも地域でも元気よく活動を再開しています。

大切なこれから10年

多くの科学者が2030年が地球、人類の分岐点と行っています。地球温暖化、AI兵器や遺伝子編集などテクノロジーの脅威、食料と水不足による紛争激化。これから10年の選択が極

めて重要です。国連は2030年目標として17のSDGsを採択。誰も取り残さない公平な社会を目指しています。

古賀市もちょうど2022年度から10年間の計画を策定中です。

私は、20数年の議員活動の経験を生かし、「チャレンジ2030」を掲げて活動します。2020年の元旦に誓いました。

一緒に考え行動する

そのために、私は今まで以上に市民、若者の皆さんに必要な情報をお届けします。そして一緒に話し合い、行動します。意見が異なる人と争うのではなく、合意点を見出し、悔いのない2030年を目指します。

ぬま健司のプロフィール

- 1952年4月17日生まれ
- 千葉大医学部中退
- 7期目、議会運営委員会委員長
政策推進会議会長、元市議会議員
- 政策提言と議会改革の実績重ねる

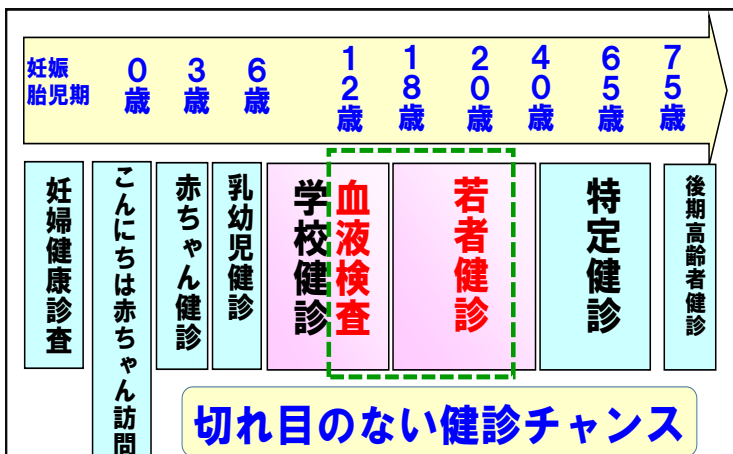
- 「地域医療と市民を結ぶ会」（大岩俊夫代表）事務局長。市民の健康、命を守ることがライフワーク
- パンフ「提言詳報・一般質問記録」を14弾まで発行（1部500円）
- 妻、娘と花見東在住。息子は尼崎市

予防で守れる健康はぜったいに守る！
小中学生対象の血液検査 早期実施を市長に提言

田辺市長の12月議会での答弁

「法的に義務づけられた健診を優先し、しかるべき時に検討する」

「しかるべき時」は今です！3月議会に示される田辺市長の施政方針を注目します。2020年度から小学生対象の血液検査をモデル校での実施を求め、しっかり議論します。



▼生活習慣病予防は子どもから必要と指摘されています。糖尿病予備軍は子どもにもいます。小中学生から30歳までの間に血液検査と保健指導を追加すれば、予防効果が期待されます。

●糖尿病の兆候であるヘモグロビンA1cの基準を超える児童の割合が3割というデータがあります。大人の健診受診率が30%程度で低迷、子どもの頃からの健診が必要になっています。●私は

2018年から提言していますが、国が義務付けていないため古賀市は足踏みしています。市民の健康は最優先課題です。10年先を考え、今から始めて継続することが必要不可欠です。

チクリは一瞬、メタボは一生
広がる子ども血液検査

10年前から取り組んでいる兵庫県尼崎市では、有所見率の改善、保護者の健診受診率アップ、医療費の抑制等の効果を上げています。古賀市も続こう！

自治体	対象学年	開始年
宇美町	小4	2018年
香川県	県内全市町、小4	2012年
尼崎市	11歳、14歳	2010年
松本市	小4、中2	2013年

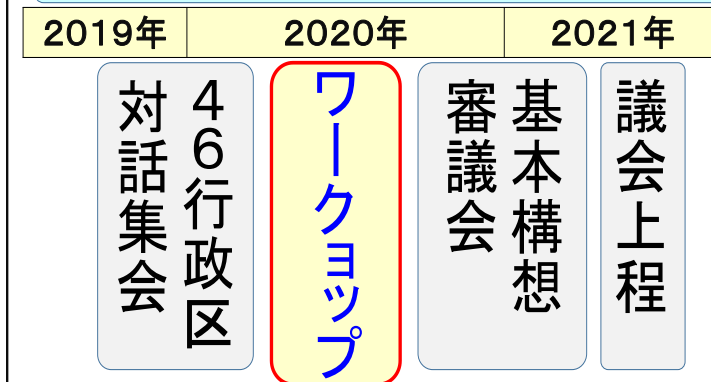
市長の「対話集会」だけでは不十分
総合計画市民ワークショップ 市長に提言

田辺市長の12月議会での答弁

「対話集会は有用性ある。貴重なご意見として受け止める」

貴重な意見としてどう受け止めたのか、3月議会に示される田辺市長の施政方針を注目します。田辺市長がこだわる対話集会に加えてワークショップも実施することを強く求めます。

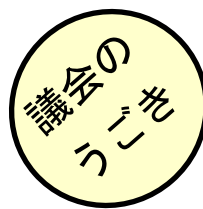
第5次総合計画策定 市民ワークショップ追加を



▼ワークショップとは、ファシリテーターの進行で、市長と市民、市民同士の対話で将来像や解決策を探る新しい手法です。この効果に着目し、採用する自治体が増えています。

●私は、今年6月から9月、無作為抽出による市民委員で3回のワークショップを提言。20代~40代の声

が反映される仕組みが必要です。●福津市は2018年にワークショップを行い総合計画に生かしています。



地球温暖化問題をテーマに選定

壱岐市の職員講師に気候非常事態宣言を学ぶ

古賀市議会の政策推進会議（会長：奴間健司、議員全員で構成）は、1月20日、長崎県壱岐市のSDGs未来課長を講師に研修会を行います。

海水温上昇、巨大台風や漁獲高の激減、熱中症の激増など深刻です。再生可能エネルギーの活用など古賀市としての対応策を議会として提案します。